



## 江川 直樹 (研究代表者)

### 専門とする分野：

建築設計（集住環境）  
建築環境デザイン

### 所属：

関西大学 環境都市工学部 建築学科  
現代計画研究所

### 経歴：

1976年 早稲田大学 建築学科 卒業  
1976年 早稲田大学大学院 建築学専修 修了  
1977年 現代計画研究所  
1982年 現代計画研究所 大阪事務所 開設  
2004年 関西大学 建築学科 教授

## 団地再編のイメージ

本技術開発研究は、大規模な公的賃貸住宅団地の再編を考えるプロジェクトである。次年度からの提案作成に向け、その背景と目標、目指すべき視点、再編のイメージを要約する。

- 1) 320万戸といわれる公的賃貸住宅は、次代に向けて、地域に根差す集住環境として、地域の管理のもとに再編されるべきである。現状、すでに、現在の公的事業主体が維持管理するボリュームを超えており、公的事業主体の過大な負担になっており、今後集中してその時期を迎える再生事業主体としての実施可能な規模を超えている。地域の管理に移行するためにも、公的事業としての規模、在り方を再検討する必要に迫られている。
- 2) わが国で現在行われている再生事例を見ると、戻り居住を希望する割合は場所によって異なるものの40%程度以下であり、住戸面積の増大を伴ったとしても多くの土地が余剰となる現状である。この土地の利用は、地域再生の視点から捉えられるべき貴重な財産であり、現在広く行われているような、単なる団地住戸建替事業費用捻出のためのものに終わらせてはいけない。
- 3) 大規模団地の抱える問題は、形態にとどまらずその巨大な均質性が大きな要因の一つである。継続して住んでいた住民が同じ公営住宅への戻りを選択しない場合、現状では地域に住み続ける他のメニューがないという現状がある。おそらく、地域に住み続けたい住民にとっても、地域コミュニティの再生・維持にとっても考えなければならない問題である。持続的な居住環境とは、住民自らの発意が反映される居住環境でなければならない。新たに追加されるメニューは、地域によって作られ、地域によって運営されるべきである。
- 4) 住み続けたい住民のための再生事業に関しても、地域の視点も含めて出来るだけ従前のストックを活かすことは必要であるが、それとともに、今後の維持、再生を妨げないまちづくりの視点が重要である。現在の「一団地建築物設計制度」を考えなおし、普通の建物のように接道条件を満たす、もしくは出来るだけその規模を小さくしておくという視点は、次代に向けて真摯に捉えなければならない問題である。巨大な団地を小さな単位に再編することが必要である。
- 5) 高齢化や少子化、雇用の減少、社会的弱者の増大などの社会的課題を、これら団地の再編に絡めて、周辺環境も含めたまちの問題として総合的に解決していくプロセスプランニング、事業・運営マネジメントシステムを模索する技術開発研究を産官学が協働して行うべき時期にある。特に、産では地域が主体となる新たな<産>の検討、官では、従前管理主体としての官から新たな<官>の役割、支援手法の検討、学では、住民と協働する再生事業に果たす<学>の役割、事業推進のためのラウンドテーブルとしての役割等が検討されるべきである。

現段階での、団地再編のイメージは以下の通りである。

- 1) 団地再編のプロセスを居住者と専門家とが協働し、コミュニティを再生させる過程と捉え、そのために必要な全体構成、仕組みの再整備を考える。
- 2) 空間に対する住民の関わりを視覚化する仕掛けを重要視する。⇒”場所の声”を聞き、つまり、場所の特性に応じて暮らしの場所をつくるような、多様で豊かな、目に見える住環境形成を実現する。
- 3) 大胆なストック活用によって付加価値を生み出す。⇒極力残せるものは残し再整備して、住民が住み続けられるようにしながら、団地全体として住宅市街地への再編となるような土地の再利用デザイン、構成を考える。
- 4) 地域的土地利用の見直しを行い、団地ストックの社会化を見据え、団地の中に公道を通し、周辺との連続性に留意した小規模な街区単位に分割する
- 5) 地域企業、住民が継続して参画できるスケールの“まち”に再編する。

## 団地再編に関する知見

### □建築・環境デザイン作品：

- ・浜甲子園さくら街（建替1期）、＜兵庫県西宮市＞／西宮市都市景観賞・まちなみ発見クラブ賞（2011）、都市住宅学会賞・業績賞（2009）、地域住宅計画賞奨励賞（2008）、日本建築家協会優秀建築選（2008）、日本都市計画学会関西まちづくり賞（2007）、
- ・芦屋市若宮地区震災復興住環境整備・市営若宮町住宅、＜兵庫県芦屋市＞／都市住宅学会賞・業績賞（2006）、地域住宅計画賞（2006）、日本都市計画学会関西まちづくり賞（2002）、兵庫県人間サイズのまちづくり賞（2002）
- ・南芦屋浜震災復興団地 ＜兵庫県芦屋市＞／地域住宅計画賞奨励賞（2010）、公共の色彩賞（2000）
- ・御坊市宮島団地再生、＜和歌山県御坊市＞／日本都市計画学会賞・計画設計賞（2002）、和歌山県ふるさと建築景観賞（2001）、日本都市計画学会関西まちづくり賞（2000）
- ・アルカディア 21 住宅街区、＜兵庫県三田市＞／J U D I パブリックデザイン賞・空間賞（2011）、土木学会デザイン賞（2008）、公共の色彩賞（1990）
- ・六甲道駅南地区震災復興市街地再開発、＜兵庫県神戸市＞／日本都市計画学会賞・計画設計賞（2008）、日本都市計画学会関西まちづくり賞（2008）
- ・今田町の家（空中緑間住宅）、＜兵庫県篠山市＞／家づくり賞（2002）、大地に還る住宅優秀賞（2001）、日本建築士会連合会賞・作品賞（2000）
- ・キャナルタウン兵庫、＜兵庫県神戸市＞／土木学会デザイン賞（2008）、全建賞（2000）
- ・京都の都心界隈における地域共生のまちづくりの取り組み（アーバネックス三条）、＜京都市＞／日本都市計画学会関西まちづくり賞（2003）
- ・明舞団地再生コンペ（小さく解く、混ぜて解く）、＜兵庫県神戸市、明石市＞／明舞団地再生コンペ・優秀賞（2006）
- ・既存住宅団地の再生に関する提案 『『まちなか居住』と『団地再生』の連鎖的整備』／国交省選定（2006）
- ・同上 「建替え・増築・改修による段階的更新手法のケーススタディー」／国交省選定（2006）

### □著作：

- 「場所の声を聞く ー集まって住むカタチのデザイナーー」単著、関西大学出版部（2011）
- 「美しい両棲集落 カンポンブロック村の実測調査から」共著 関西大学（2010）
- 「代表的計画市街地・芦屋浜高層住宅地区の検証と次代への展望に関する研究」共著、財団法人アーバンハウジング（2010）
- 「団地再生2 よみがえるコミュニティと住環境」共著 水曜社（2009）
- 「住まいと街の仕掛人」共著 学芸出版社（2003）／都市住宅学会賞・著作賞（2006）
- 「積層集住空間の計画手法に関する研究」共著 住宅総合研究財団、丸善（1999）
- 「住宅の近未来像」共著 学芸出版社（1996）、「都市環境デザイン」共著 学芸出版社（1995）

### □論説他：

- 「居住再生という建築行為を通して考える“建築の可能性”」、『建築とまちづくり』 新建築家技術者集団 NO.399 p11-p16（2011.06.01）
- 「地域の文脈をつなげる再生デザイン」『JUDI 仕事の軌跡と展望』、共著、p80-p83（2011.06.11）
- 「集住空間のデザインーマス、ボリューム、スケールの彼方ー」、『近代の空間システム・日本の空間システム 都市と建築の21世紀：省察と展望』、日本建築学会（2008.10）
- 「親街路性の視点と設計システムの視点から集住環境の再生を考える」、『集合住宅（団地）の社会システムを考える』、日本建築学会大会（九州）建築計画委員会集合住宅管理小委員会 研究協議会資料、69-72（2007.08）
- 「潤いと安らぎのあるまちをめざして」、『地方議人会』2006/03、中央文化社、13-18（2006.3）

## 2011年1月以降の業績（発表論文・著書など）

### □受賞（建築・環境デザイン作品）：

- ・第1回 JUDI パブリックデザイン賞（空間賞）、アルカディア 21 住宅街区＜兵庫県三田市＞／（環境デザイン設計：現代計画設計研究所大阪事務所・江川直樹）、都市環境デザイン会議（2011.10.08）
- ・第5回西宮市都市景観賞（まちなみ発見クラブ賞）、浜甲子園さくら街（1期建替）＜兵庫県西宮市＞／現代計画設計研究所大阪事務所（江川直樹：マスターアーキテクト）、独立行政法人都市再生機構西日本支社（2011.02.06）

### □著書：

- ・江川直樹『場所の声を聞く 集まって住むカタチのデザイン』、単著、関西大学出版部、p01-210（2011.10.01）

### □論説他：

- ・江川直樹「一つに決めてしまわないほうが良い」、『東日本大震災・原発事故 復興まちづくりに向けて』、共著、学芸出版社、p86-89（2011.07.22）
- ・江川直樹「地域の文脈をつなげる再生デザイン」、『JUDI 仕事の軌跡と展望』、共著、p80-p83（2011.06.11）
- ・江川直樹「居住再生という建築行為を通して考える“建築の可能性”」、『建築とまちづくり』 新建築家技術者集団 NO.399 p11-p16（2011.06.01）
- ・「集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究、『技苑』関西大学先端科学技術推進機構 NO.134,pp51-62、2012年3月31日
- ・「浜甲子園団地の再生」、「ワークショップハウジング 御坊市宮島団地の再生」、「再生現場を空間計画の立場から確認してヒューム地区」、「同左 ベルマミーア地区」、「同左 La Duchere,Lyon」、「同左 Poptahof,Delft」、「同左 Montbeliard-Bethoncourt」  
関西大学地域再生センター、Re-DANCHI leaflet NO.9、16、55、56、60、61、62、2012年5月

### 『関西大学 戦略的研究基盤 団地再編 プロフィールシート』

執筆：江川直樹

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究（平成23年度～平成27年度）」によって作成された。

### 関西大学

先端科学技術推進機構 地域再生センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号  
先端科学技術推進機構4F 団地再編プロジェクト室

Tel : 06-6368-1111 (内線:6720)

URL : <http://ksdp.jimdo.com/>